

まことと会便り

2016/8

八月に入り、蒸し暑い日が続いていきます。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

先日の春季永代経法要で、富島先生のお話の中に仏様の心を私たちは受け取っていますか？との問いがありました。

親鸞聖人曰く、

『ああ、この大いなる本願は、いくたび生を重ねてもあえるものではなく、まことの信心はどれだけ時を経ても得ることはできない。思いがけずこの真実の行と真実の信を得たなら(中略)世を超えてたぐいまれな正しい法である。この本願のいわれを聞いて、疑いためらってはならない』(教行信証現代語訳より)何年も何年も真実の救いを求めて修行を重ねた中で如来の本願にやっと遇うことができた感動を、こう綴っておられます。

私たちは自らというよりは聖人のおかげで、思いがけず如来の大悲の教えに出遭っています。親鸞聖人がいらっしやらなかったら、浄土真宗が無かったら、私たちは自らの力でこの教えに遇うことはできなかったでしょう。この教えを守り伝えて下さった先人たちへの感謝とともに次の世代へ伝えたいものです。

行事予定



七月十四日

まこと会 夏法座

午後一時半より

講師 住職 飯田通暁師

八月五日

原爆速夜法曹

於 原爆ドーム横 西向寺

午後七時半よりお勤めの後

平和公園供養塔まで提灯行列

参加は自由。申込不要です

八月十三日

光圓寺 盆法座

初盆の「家族」案内します

春季永代経法要が勤まりました

五月二十五日(水)・二十六日(木)

講師 本願寺派布教使 富島 昭圓師

始まりにはおみのりの歌を歌い、ご法話の中では、拝読本や先生特製のレジュメを使って言葉だけでなく、視覚や聴覚などいろいろ刺激されながらのお聴聞でした。富島先生スタイルに引かれて、二日とも多くの方々にお参り頂きました。ありがとうございました。



【春季永代経法要 坊守覚え書き】

— 伝灯奉告法要を前にして 本当の人生を歩む —

その確かなよりどころ(真実)は念仏である。

戦と飢饉に見舞われて乱れた鎌倉の時代に、真実の救いを求めた

法然上人は、順彼仏願故(かの仏のねがいに順ずるが故)と申されて阿弥陀如来の教えに帰依し比叡山を下りられました。その専修念仏の教えのもと親鸞聖人は「今ここでの救い」を理論化されました。

阿弥陀如来さまの四十八願は皆さんもよくご存じでしょう。私たちが凡夫を苦惱の中で安心して生きてゆけるようにしてやりたい、生き生きのびのび生きてゆけるようにしてやりたいと願われて立てられました。では、なぜ本願をたててくださったのでしょうか。それが苦悩の者を捨てることのできない仏さまの心なのです。摂取不捨のところで余すことなく救いとしてやるといわれています。

みなさまはその仏さまの心を受け取っていますか?いくら仏さまが救いを差しのべて下さっていても、私が気づかなければ、私が受け取らなければ、今この私は救われないのです。

受け取るために私たちは何をすべきなのでしょう。それは捨てることです。こだわりを捨てる。執着を捨てる。我執を捨てて、ただ南無阿弥の救いに任せるのです。

「拝読 浄土真宗のみ教え」



今回の法話の中で富島先生がお使いになられた本についてご紹介します。この本は平成二十一年に本願寺出版から出版されました。

親鸞聖人の説かれた浄土真宗の教えは、最初は直接接することのできた限られた人々のものでした。それを全国的に多くの人々に広めていかれたのが蓮如上人です。蓮如上人は当時の人々に分かり易く説かれるために沢山のお手紙を書かれました。それが御文章です。この本は、当時の御文章のように、浄土真宗のみ教えを現代の人々に親しみやすい表現で示すことで、門信徒の皆さんが味わいを深めることができるようにと編集されました。

「浄土真宗の救いのよろこび」「親鸞聖人のことば」を収録していて、日常のお勤めにもお使いいただけます。

先日春季永代経法要にご参拝になられた方々にはお配りしました。来年の春季永代経法要も富島先生に引き続きご登壇頂く予定です。皆さま来年の参拝の折にもお忘れなく、お持ちになってご参拝下さい。